

NEWS RELEASE

断捨離×ブランディア

年末の大掃除は、ダンシャリサイクルで3万円GET

ブランディアの代表：竹内拓 と 断捨離の提唱者：やましたひでこさんが対談

【概要】

ブランド品宅配買取サービス「ブランディア（<http://brandear.jp/>）」（以下、ブランディア）を運営する株式会社デファクトスタンダード（本社：東京都大田区）の代表取締役社長 竹内拓がこの度ベストセラー著書・新片づけ術「断捨離」やセミナーなどを通して『断捨離（だんしゃり）』を提唱している、やましたひでこさんと対談を行いました。

【背景と目的】

お互いの考え方と共感しあい、意気投合した『断捨離』の提唱者やましたひでこさんと「ブランディア」のデファクトスタンダード代表取締役社長 竹内拓との対談が実現しました。

『断捨離』を通して発生する不用品をただ捨てるのではなく、「ブランディア」で買い取ることにより、リサイクルに繋げることを『ダンシャリサイクル』と名付け、お客様の身も心も軽くごきげんになって頂くこの取り組みを、世の中に広めたいと考えております。

やましたひでこさんの提唱する『断捨離』には色々な解釈がありますが、整理整頓することだけではなく、「入れ替え」や「新陳代謝」であって、気持ちを喜ばせるためのツールと捉えられます。季節やその時の気持ちに応じたモノの入れ替えを促進する1つの考え方なのです。

また、『断捨離』の「捨」は出口という意味を持っています。排出してこそ、モノを取り込む意味、使う意味、活用する意味があります。高いモノを買ってしまうとどうしても自分を責めてしまって後ろめたいから「いつか着るかも」とついつい取っておいてしまいます。そうやって堆積させてしまうことは、結果的にその洋服の良さを殺してしまっていることになります。

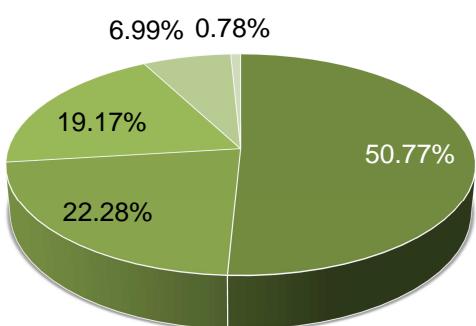


『断捨離』の中の「捨」を行う際、つまり自分自身にとって不要となったモノを手放す際に「ブランディア」を利用して頂き、ただ捨てるのではなく『ダンシャリサイクル』を行うことで、他の人に着てもらう機会を洋服に与え、それがその洋服をイキイキとよみがえらせる事、そしてその方自身の心が軽くなることへつながっていくと考えています。

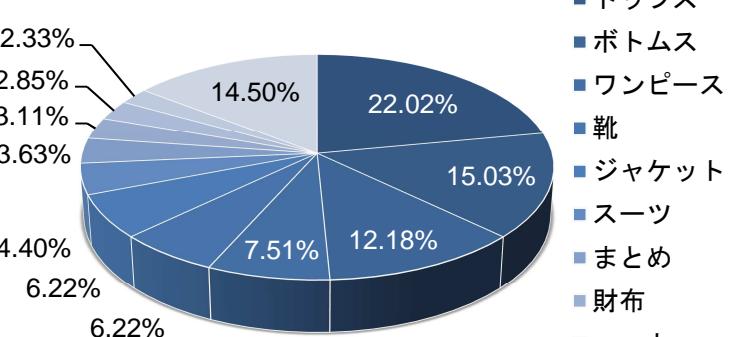
【ダンシャリサイクル 利用者属性】(断捨離を実行するなかで、ブランドアを利用したお客様)

平均買取単価：1人当たり ¥30,216

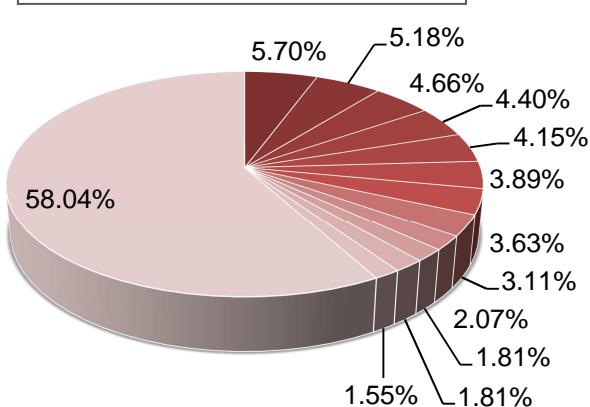
利用者 年代別構成比



買取ジャンル別構成比



買取ブランド別構成比



- AMACA
- 不明
- theory
- COACH
- Margaret Howell
- HERMES
- JOURNAL STANDARD
- YOSHIE INABA
- LOUIS VUITTON
- Lois CRAYON
- Burberry LONDON
- ISSEY MIYAKE
- その他

※2011年12月現在 自社調べ

【会社概要】

会社名：株式会社デファクトスタンダード
 主な事業内容：ブランド品宅配買取サービス【ブランドア】<http://brandear.jp/>
 代表者：代表取締役社長 竹内 拓(たけうち たく)
 本社所在地：東京都大田区平和島6-1-1 TRC, BE2-3
 設立日：2004年4月、資本金：8,975万円

「ブランドア」は不用になったバッグ・アクセサリー・時計・衣類などのブランド品の買取を行う宅配買取サービスで、家にいながら買取を依頼できる送料等無料のサービスです。高級品～身近なブランドまで、取扱ブランド数4,500種類以上という取扱ブランドの幅の広さが特徴で、急激に利用者数を伸ばしております。なお、当サービスはインターネットに特化し、店舗を持たずに展開している日本で唯一の【買取サービスモデル】として、リユース品を通じた循環型社会の構築に努めています。

【本件についてのお問い合わせ先】

株式会社デファクトスタンダード 広報：服部 磨由子(はつとり まゆこ)
 TEL: 03-3764-5112 FAX: 03-3764-5986 E-mail: press@defactostandard.co.jp

特集

断捨離 ×  Brandea

片づけられない自分とお別れしよう！



モノを手放すことで人生が変わる！

「断捨離」提唱のやましたひでこさんと、宅配買取サービス「Brandea」の竹内拓社長が対談。身の回りの整理術から環境保護まで、7回に分けて様々なテーマで語っています。「使えるのに捨てるのは可哀想」と思っている方必見。「断捨離」の意味が見えてきます！

片づけ術は「断捨離」の入り口。でもそれだけにとどまらないのです。

竹内 早速ですが、今回「断捨離」についての対談ということで、Brandeaの取り組みと「断捨離」にどんな関連性があるか、また今後どういった展開をしていくのか、一緒に話していければと思っています。

やました よろしくお願ひします。



竹内 そもそも、「断捨離」とはどういったものなんでしょうか？

やました 竹内さんはどんなイメージで捉えていますか？

竹内 漢然としていますが、漢字のイメージから「離れる」ということによって、何かしら自分の『利』を得ることかなと思っています。

やました 「断捨離」には色々な解釈がありますが、やはり「入れ替え」や「新陳代謝」だと、私自身は捉えています。だからモノであれ食べ物であれ、取り込んで消化吸収・自己化した後に残った、不要・不適・不快なものはキッチンと外に出していく。排出してこそ、モノを取り込む意味、使う意味、活用する意味があるのではないかと思っています。

竹内 なるほど。単に「捨てる」ということではなく、入ってくるものもあれば、出していくものもあるということなんですね。

やました そうです。そういうモノの流れがあるのは自然なことで、流れを滞らせた結果、詰め込み淀んで、色々なことが詰まってきたと考えているんです。

竹内 ああ、なるほど。

やました 食べ物で例えるのが一番わかりやすいのですが、家の中ではモノが停滞、堆積すること。情報なら過剰に入ってきて処理ができないで苦しくなってしまうことなんですね。入口と出口があって、その入口と出口の間で、いかに活かすか、どう使いこなすかという事なのですね。

竹内 そうか、私自身は捨てるだけというイメージが強かったのですが、そうではなく流れの中で出していく・入ってくるバランスの方なのですね。

やました ええ、「断捨離」=「捨てる」というイメージが強いのですが、断捨離の「捨」は出口のこと。まず出口がちゃんと手当できているかどうか。出口があるから、私たちは、安心してモノを取り込める。そして、もちろん、入口での精査も大切。「捨」と「捨」のバランスがとれ、スムーズに行なった時に、自分の手元にあるモノたちと、良好な関係「離」の状態となれるのではないかしらう。

竹内 ただ単に片づけをすることが「断捨離」じゃないんですね！

やました そうですね、この概念をわかりやすく自分の生活の中に取り入れるには、モノからやった方がわかりやすいのではと考えて、片づけ術に落とし込んだのです（笑）。

竹内 はい、はい。

やました 出口の「捨」の重要性をより深く理解考察して頂くために、家の片づけがありますよと呼びかけをしたつもりだったのですが、大きく誤解されまして（笑）。
「断捨離」=「捨てる」というイメージになってしまっているんですね。



竹内 いやあ私も大失礼ながら「お片づけ」=「断捨離」と捉えがちでした（汗）

やました でもね、言い換えるとスタートはその理解で良いのかなと。

竹内 そうなんですか？

やました 何故なら、詰まりきっているから。

竹内 はははは、なるほどなるほど。

やました 入口だと出口だと、そんなことを言っている場合じゃなくて、詰まって、詰まって、詰まりきって苦しい思いをしているのですから。まずは捨てる。着手点はそこからで良いと思ってます。
「断捨離」=「捨てる」と理解されて定着してしまうのは、私としては残念ですが「そうじゃなくて！」みたいに否定する気はないです。だって、詰まりが取れただけでもすごいことですから！

竹内 そうですよね、そこから始めれば。

やました たまたまモノからはじめた訳だから、例えばそれが洋服であったり、食器であったり、本であったり、実は何でも良いわけです。

竹内 身の回りのものから、ですね。

やました そうです、そうです。身の回りから始めなくてどうする！って思いがりますね。